



ほけんだより 1月号

12月のしいの木保育園

*インフルエンザ・・・55名(約半分の子が感染しました)

*溶連菌感染症・・・1名

*伝染性紅斑(りんご病)・・・1名

全国的にインフルエンザの流行がみられた12月。高熱で辛い経験をした子も多かったことと思います。

もうしばらくインフルエンザのシーズンは続きます。

型をどんどん変えてくるインフルエンザウイルス。手洗いなどの基本的な対策でのりこえましょう！

解熱剤、正しく使って

どんなときに使う？

熱で寝つけない、
飲んだり食べたりできないときに
飲ませましょう。

ただ単に熱があるからと飲ませるのではなく、「睡眠をとって体力を回復させるため」「水分をとって脱水を防ぐため」など、必要なときに使しましょう。



風邪で高い熱が出ると心配になるものですが、発熱は病原体と戦うための生理的な反応。熱を下げることで治りが早くなるわけではありません。

熱が下がれば大丈夫？

効果が切れたらまた熱が上がります。
解熱の判断は24時間以上
熱が出ないときです。

解熱剤の効果で熱が下がるのは5～6時間ほどで、効果が切れたらまた熱上がることがほとんどです。引き続き様子を見て、静かに過ごさせましょう。解熱剤で熱を下げて無理をさせると、かえって病気が長引くおそれがあります。



おねがい



突然のけが・高熱など・・・子どもの身体は急にいろいろなことが起こります。緊急連絡先に電話をしても職場にいなかった！携帯に出ない！なんてことも時折あります。

状況に応じ、折り返しを待つか、第2緊急連絡先に連絡をするか判断をしています。状況によっては、一刻も早い判断や対応が必要になることがあります。保護者の方と速やかに連絡が取れることが、お子さまの安全と安心につながります。保育中は常に電話に出られる状態にさせていただきますよう、ご協力をお願いいたします。仕事がお休みなどその日の緊急連絡先が変わる場合は、必ず登園時にお知らせください。

こどもの上手な受診ハンドブック

こどもの様子がおかしい・・・急いで受診したほうがよいのか、家庭でできることは何か、判断に迷った経験はありませんか？

そんな時に、静岡県から出ているハンドブックが役立ちます。

「こどもの上手な受診ハンドブック～こんな時はどうする？～」は、静岡県のホームページからダウンロードできます。

吐いたとき・咳が続くときなど症状別に載せてあります。今日中に受診すべきか様子をみても良いのか、わかりやすくなっていますので、ご家庭で見られるようにしておくと役立つと思います。



2026 こどももおとなも 元気にすごせますように！

